

教員名	耳塚 寛明 (MIMIZUKA Hiroaki)
所 属	文教育学部人間社会科学科教育科学講座
学 位	教育学修士 (1979 東京大学)
職 名	教授
URL/E-mail	mimi@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

教育社会学 / 学力 / 進路選択 / 教育政策 / 学校組織

◆主要業績

総数 (7) 件

- ・耳塚寛明「揺れる学校の機能と職業社会への移行」社会政策学会編『社会政策学会誌第 13 号 若者一長期化する移行期と社会政策』、17-30 頁
- ・耳塚寛明「何が学力を決めるのか—A エリア小 6 算数学力の規定要因分析—」『青少年期から成人期への移行についての追跡的研究 JELS 第 4 集 細分析論文集 (1)』、お茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム、1-21 頁
- ・矢島正見・耳塚寛明編著『変わる若者と職業世界 トランジッションの社会学 第 2 版』学文社、2005、全 201 頁

◆研究内容

教育社会学。とくに教育政策、学校組織、進路選択、学力形成に関する実証的研究。

1. 学力形成の社会学 だれが学力を獲得するのか。青少年の学力形成の過程に、家庭の経済的・文化的環境、地域特性、学校特性の観点からアプローチ。21 世紀 COE プログラム「誕生から死までの人間発達科学」の一環として、ふたつのフィールドを対象に実証研究 JELS2003(Japan Education Longitudinal Study)を進める。
2. 進路選択の社会学 だれが、どのように進路を選び取り、選抜されるのか。とくに高校生の進路選択の社会学的分析。高卒無業者、ニート、フリーターにも焦点をあわせる。
3. 教育政策の社会学 国および地方自治体レベルの教育政策（義務教育、高校教育）に関する研究。

◆教育内容

学部、大学院において以下の授業を開講している。

1. 教育社会学、学校社会学の概論および特殊講義
2. 社会調査法、教育調査法に関する講義、演習
3. 教育社会学方法論に関する講義、演習
4. 教職課程における、教育社会学を中心とした講義
 {2005 年度} 学部ゼミでは、「青少年の進路選択と教育選抜の社会学」をテーマに内外の基礎文献を輪読した。各回とも、最新の教育関係の文献、記事、番組等を取り上げて紹介・議論するコーナーを設け、また夏合宿を実施。大学院ゼミでは、『教育社会学 第三のソリューション』(Halsey, A.H.ほか)を基礎文献として、新自由主義的教育政策とその帰結について議論した。大学院生合宿を実施。

◆Research Pursuits

Sociological Study of Education; Educational Policy, School Organization, Educational Selection, Achievement.

Theme 1. Ecological Study of Student Achievement; I administered an empirical research on the relationship of students' achievement, their career formation and family background (Japan Education Longitudinal Study 2003 by OCHANOMIZU University).

Theme 2. Sociological Study of Student Career Formation; I analyzed changing patterns of youth transition from school to work, focusing on the emergence of young part-time workers or NEET.

Theme 3. Sociology of Educational Policy in Japan

◆Educational Pursuits

1. Introduction of Sociology of Education and School
2. Lecture and Exercise of Social Research
3. Lecture and Seminar on the Methodology of Sociology of Education
4. Lecture on Social Foundation of Education (Teacher Training Course)

In the 2005/2006 term, the major theme of a seminar in the undergraduate course was a sociological analysis of youth career formation and educational selection. In a seminar of the graduate school, we discussed on limits and possibilities of educational policies of the new right.

◆共同研究例

- ・「第3回学習基本調査」 ベネッセ教育研究所 2002年

◆将来の研究計画・研究の展望

だれが学力を獲得するのかの分析を通じて、子どもたちの学力形成に家庭・地域の経済と文化が深く関わり、学力の社会的格差が生まれていることが明らかとなりつつある。どこにいかなる資源配分（社会政策、教育政策、指導改善等）が必要であるのかの分析を通じて、スタートラインが「生まれ」によって異なる状況を平等化する方策を模索したい。わが国では唯一とっていい、青少年期からの縦断的調査研究である JELS2003 を継続し、またエリアを広げた調査研究を展開したい。

◆共同研究可能テーマ・今後実用化したいテーマ

- ・学力の生態学的研究
- ・青少年の進路選択、職業意識に関する調査研究

◆受験生等へのメッセージ

いま日本の学校教育は激動期にあります。義務教育は、長い間変わらなかった制度の根幹が崩れようとし（たとえば義務教育費国庫負担や中央集権的な教育課程）、分権化が進み、「脱ゆとり」路線へと舵が切られました。行政の重点は条件整備から結果の評価に基づく資源配分へと変わりつつあります。全国一斉学力テストの導入や学校評価システムの整備はその一例です。こうした教育界を襲う変化は、子どもたちの発達に、学校の機能に、さらには社会そのものの姿に、どういう帰結をもたらすのでしょうか。教育の現在に危機意識を持って、エビデンス・ベースにアプローチして見ようとする皆さんを歓迎します。また現状分析に基づいて新たな施策を検討しようとする行政や学校との共同研究にも期待しています。

Aエリア小6・受験塾通塾別算数学力分布 (JELS2003)

